

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和7年度】

年 月 日

東京都福祉サービス評価推進機構
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 176-0001

所在地 東京都練馬区練馬1-20-2

評価機関名 株式会社 日本生活介護

認証評価機関番号

機構 02 - 015

電話番号 03-3991-8440

代表者氏名 佐藤 義夫

印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	鈴木 雄司	経営	H2101005
	②	岩井 智子	福祉	H2301113
	③	坂内 八重子	福祉	H2401119
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	学童クラブ			
評価対象事業所名称	経堂小新BOP学童クラブ			
事業所連絡先	〒	156-0045		
	所在地	世田谷区桜上水1丁目23番3号		
	TEL	03-3420-1788		
事業所代表者氏名	事務局長 加藤 庸徳			
契約日	2025 年 4 月 16 日			
利用者調査票配付日(実施日)	2025 年 7 月 1 日			
利用者調査結果報告日	2025 年 9 月 1 日			
自己評価の調査票配付日	2025 年 6 月 11 日			
自己評価結果報告日	2025 年 9 月 1 日			
訪問調査日	2025 年 9 月 12 日			
評価合議日	2025 年 9 月 12 日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	利用者調査については、アンケート調査を行った。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。
本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します。
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- 別添の理由書により、公表には同意しません。

年 月 日

事業者代表者氏名

印

1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>1)命を守られ成長できること 2)子どもにとって最もよいこと 3)意見を表明し参加できること 4)差別のないこと</p>
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健全な心身を有し、豊かな人間性と倫理観を備え、児童福祉事業に熱意のある人材。子どもの権利について知識を有し、理解があること。児童福祉事業の理論及び実際について訓練を受けたことがあると望ましい。 ・常に自己研鑽に励み、児童の健全な育成を図るために必要な知識及び技能の修得、維持及び向上に努められる人材。 ・子どもや保護者を取り巻くさまざまな状況に関心を持ち、育成支援に当たった課題等について建設的な意見交換を行うことにより、事業内容を向上させるように努められる人材。 ・世田谷区が目指す放課後児童健全育成事業を理解している人材。 <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <p>『放課後児童クラブ運営指針における職場倫理』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもや保護者の人権に十分配慮するとともに、一人ひとりの人格を尊重する。 ・児童虐待等の子どもの心身に有害な影響を与える行為を禁止する。 ・国籍、信条又は社会的な身分による差別的な扱いを禁止する。 ・守秘義務を遵守する。 ・関係法令に基づき個人情報適切に取り扱い、プライバシーを保護する。 ・保護者に誠実に対応し、信頼関係を構築する。 ・放課後児童支援員等が相互に協力し、研鑽を積みながら、事業内容の向上に努める。 ・事業の社会的責任や公共性を自覚する。

調査対象

登録児童全員を対象とした。

調査方法

Webによるアンケート調査は、QRコードを記載した案内文を配布し、回答が直接評価機関に届くようにした。

利用者総数

182

共通評価項目による調査対象者数
 共通評価項目による調査の有効回答者数
 利用者総数に対する回答者割合(%)

アンケート	聞き取り	計
182	0	182
51	0	51
28.0	0.0	28.0

利用者調査全体のコメント

調査対象者182名のうち、51名から回答を得ることができた。
 満足度の高い項目として、「病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか」「学童クラブでの活動は楽しく、興味の持てるものとなっているか」「おやつ時間が楽しいひとときになっているか」「子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか」「職員から学童クラブの約束ごとの説明を受けているか」などがあげられる。
 総合的な満足度では、47名が「大変満足、満足」、2名が「どちらともいえない」、2名が「不満、大変不満」と回答している。また、「もっとイベントなどが増えると嬉しい」「おやつが毎回違うのがいい」「毎日楽しい」「校庭で遊べる時間を増やしてほしい」などのコメントがあがっている。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
	はい	どちらともいえない	いいえ	無回答 非該当
1. 学童クラブでの活動は楽しく、興味の持てるものとなっているか	45	4	1	1
45名が「はい」、4名が「どちらともいえない」、1名が「いいえ」と回答している。また、「校庭で遊ぶのが楽しい」「いろんな本があると嬉しい」などのコメントがあがっている。				
2. 職員は話し相手や、相談相手になってくれるか	34	12	0	5
34名が「はい」、12名が「どちらともいえない」と回答している。また、「困った時に相談したら助けてくれた」「先生が忙しそうで話を聞いてもらえないこともある」などのコメントがあがっている。				
3. おやつ時間が楽しいひとときになっているか	44	4	0	3

44名が「はい」、4名が「どちらともいえない」と回答している。また、「おやつがおいしい」「おやつの時間は楽しみ」などのコメントがあがっている。

4. 学童クラブでの約束ごと、活動内容について話し合う機会を設け、職員は意見を尊重してくれているか	23	5	1	22
23名が「はい」、5名が「どちらともいえない」、1名が「いいえ」と回答している。また、「話し合ったことがあまりない」などのコメントがあがっている。				
5. 職員から学童クラブの約束ごとの説明を受けているか	39	6	0	6
39名が「はい」、6名が「どちらともいえない」と回答している。また、「約束事を忘れてしまった」などのコメントがあがっている。				
6. 学童クラブ内の清掃、整理整頓は行き届いているか	33	7	7	4
33名が「はい」、7名が「どちらともいえない」、7名が「いいえ」と回答している。また、「あまり自分たちで片付けていない」などのコメントがあがっている。				
7. 職員の待遇・態度は適切か	38	10	2	1
38名が「はい」、10名が「どちらともいえない」、2名が「いいえ」と回答している。また、「言葉遣いが気になることもある」などのコメントがあがっている。				
8. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	50	0	0	1
50名が「はい」と回答している。また、「体調不良やケガのときはすぐ対応してくれる」「頭を打ったときすぐ冷やしてくれた」などのコメントがあがっている。				
9. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	39	7	2	3
39名が「はい」、7名が「どちらともいえない」、2名が「いいえ」と回答している。また、「何かあれば間に入ってくれる」「トラブルが起きたとき先生が気づかないこともある」などのコメントがあがっている。				
10. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	37	8	0	6
37名が「はい」、8名が「どちらともいえない」と回答している。子どもの気持ちを尊重した対応が行われている様子がうかがえる。				

11. 子どものプライバシーは守られているか	32	9	0	10
32名が「はい」、9名が「どちらともいえない」と回答している。また、「そもそも秘密がない」などのコメントがあがっている。				
12. 子どもの不満や要望は対応されているか	37	3	1	10
37名が「はい」、3名が「どちらともいえない」、1名が「いいえ」と回答している。子どもの不満や要望に一定の対応がなされている様子がうかがえる。				
13. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	19	4	4	24
19名が「はい」、4名が「どちらともいえない」、4名が「いいえ」、24名が「非該当・無回答」と回答している。また、「よくわからない」「相談することがない」などのコメントがあがっている。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリー1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリー1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリー1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている ○非該当
	●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している ○非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている ○非該当
	●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している ○非該当
	●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝える ○非該当
	カテゴリー1の講評	
	運営方針を全職員に共有するため、書面確認やチェックリストの活用を行っている 運営方針を全職員に共有するため、書面確認やチェックリストの活用を行う時間を設け、理解を深めている。ミーティングにおいても方針を確認し合い、年数回の保護者会においても年間目標として示している。児童館ではイラスト付きポスターを掲示するなど、子どもや保護者が理解しやすい工夫も見られる。職員の行動が方針に即して統一される基盤を形成しているといえる。理念の周知を形式的に終わらせず、実践の中で具体的に反映する工夫を継続することで、組織全体の方向性がより明確化し、子どもにとって一貫性ある支援につながると評価できる。	
	児童課が中心となり、研修やチェックリストを通じて職員に方向性を示している 児童館長や事務局長らは、学童クラブが目指す理念や方針を具現化するため、自らの役割と責任を職員に伝える姿勢を示している。また、児童課が中心となって研修やチェックリストを通じて職員に方向性を示し、実践を進めている。職員が組織の目的を共有し、日常的な活動の中で役割意識を高めることができるようにしている。一方、現場ではシフト計画に苦慮し、担当者への負担が偏る場面もあるため、事務局長らがリーダーシップを発揮して課題解決を図っていくことが期待される。業務配分の公平性を高めていく工夫を検討し、実施していくことが望まれる。	
	重要な案件について段階的に協議し、報告する手順を定めている 重要な案件について事務局長や児童館長、児童課が段階的に協議し、必要に応じて地域学校連携課へ報告する明確な手順を定めている。事故報告や運営上の課題に際しては、児童館長や所管課と情報共有を行い、対応が組織的に進められている。決定事項は職員ミーティングで周知され、保護者や子どもには「新BOPだより」や連絡システムを通じて伝えられている。こうした仕組みにより、意思決定の透明性が担保されているといえる。しかし、意思決定に至る経緯が十分に説明されない場合もあるため、今後の改善に期待したい。	

カテゴリ-2		
2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
サブカテゴリ-1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(000000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○非該当
サブカテゴリ-2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(00)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当
カテゴリ-2の講評		
<p>現場では日々の関わりを通じて、子どもや保護者の意向を把握している</p> <p>児童課が利用者アンケートを必要に応じて実施している。現場では、日々の関わりを通じて、子どもや保護者の意向を把握する仕組みが機能している。職員の意見はミーティングを通じて吸い上げられている。また、館長会や連絡協議会を通じて地域福祉の動向に関する情報も得られているが、今後は、より詳細に地域ニーズを把握するための取り組みを検討していくことも期待される。経営状況については登録人数や出席人数を所管課に報告し、日常運営に反映している。これらの情報を事務局長や児童指導が検討し、対応方針を職員に伝えている。</p> <p>区の計画や放課後児童健全育成事業の運営方針、所管課の方針等を運営の基盤としている</p> <p>区の子ども計画や放課後児童健全育成事業の運営方針、所管課の方針を基盤として、理念やビジョンを実現するための中長期計画が策定されている。さらに、年度初めの4月には単年度計画を立案し、日常の活動に反映させている。計画に基づいた予算は地域学校連携課が編成し、事業所に配分され、各クラブにおいて計画的に使用されている。これにより、運営方針と資源配分が連動した仕組みが構築されている。今後は、計画策定の過程において把握した職員や子ども等の意向を計画内容に反映させることで、より実効性のある計画としていくことも期待したい。</p> <p>年度当初に策定した計画を職員に周知し、ミーティングの場で進捗状況を確認している</p>		

年度当初に策定した計画を職員に周知し、ミーティングの場で進捗状況を確認している。必要に応じて運営方針のチェックリストを活用し、半期や月単位での見直しを行うことで、計画の実行状況を検証している。これにより、目標達成に向けた軌道修正が可能となり、組織として柔軟に対応できる体制が確立されている。なお、進捗確認が形式的にとどまる場合もあり、成果指標の具体化や達成度の可視化には課題が残されている。今後は、計画達成度を測定する指標を明示し、振り返りを通じて改善点を共有する仕組みを強化することが望まれる。

3 経営における社会的責任			2/2
サブカテゴリ-1 (3-1)			
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるように取り組んでいる		○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。		○非該当
サブカテゴリ-2 (3-2)			
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている		○非該当
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある		○非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している		○非該当
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている		○非該当
サブカテゴリ-3 (3-3)			
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる		○非該当
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している		○非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている		○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している		○非該当
●あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる		○非該当

カテゴリ3の講評

職員が社会人として守るべき法や規範、倫理の理解と遵守の徹底に努めている

職員が社会人として守るべき法や規範、倫理の理解と遵守の徹底に努めている。個人情報の持ち出しを禁止するなど、具体的なルールを定めている。オールスタッフミーティングを通じて情報共有を行い、区の必須研修を受講することで、職員一人ひとりの意識向上を図っている。日常的に法令遵守や倫理的行動を意識する組織的な基盤の形成につなげ、学童クラブへの信頼を高めることができるように努めている。今後は、定期的な研修や振り返りの場を設け、職員間で事例を共有するなど、より一層の工夫を検討していくことも期待される。

苦情の意見や相談の方法について伝え、安心して声が届けられる環境を整えている

保護者会などの機会を活用して、苦情の意見や相談の方法について丁寧に伝え、子どもや保護者が安心して声を届けられる環境を整えている。児童館長や児童課、地域学校連携課と連携し、事故報告や要望に対して組織的に迅速な対応をしている。また、区の行動規範を基盤に、日常的な振り返りを通じて虐待防止を徹底し、疑いが生じた際には子ども家庭支援センターや児童相談所と連携して速やかに対応する体制を整えている。子どもの権利を尊重し、安全を保障する姿勢を示している。今後は、子どもがさらに安心して過ごせる環境を強化することが期待される。

保護者会や「新BOPだより」、連絡協議会などを通じて活動内容を公開している

保護者会や「新BOPだより」、連絡協議会などを通じて活動内容を公開し、地域に対して透明性の高い情報提供を行っている。また、児童課や児童館の要請に応じてボランティアや実習生を受け入れ、地域の教育資源としての役割を積極的に果たしている。さらに、連絡協議会では校長やPTA会長、遊び場関係者を招き、地域の福祉ニーズや課題を共有しながら協働体制を整えている。新BOPは、学童児のみならず全児童の放課後の居場所として機能し、支援を必要とする子どもの受け入れも行っており、地域の福祉に資する取り組みが着実に進められている。

カテゴリ-4		
4	リスクマネジメント	
サブカテゴリ-1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(○○○○●)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
○あり ●なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当
サブカテゴリ-2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(○○○○)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
カテゴリ-4の講評		
<p>安全対策マニュアルを基盤に、緊急時等に対応できる体制を計画的に整備している 安全対策マニュアルを基盤として、緊急時や感染症流行時に対応できる体制を計画的に整備している。避難訓練は月1回実施され、不審者対応訓練など多様な想定訓練を取り入れ、子どもと職員の対応力の向上を図っている。災害や事故発生時には、児童課からの情報マニュアルを迅速に参照できる位置に常備し、学校との連絡協議会を通じて情報共有を行っている。優先順位の明確化は途上ながらも、リスクの発生を想定した具体的な対策を複層的に講じている。今後は、想定されるリスクごとに重要度を評価し、優先順位を体系的に整理することが期待される。</p> <p>職員ミーティングを通じて情報を収集・整理し、要因分析と対応策の見直しを行っている 災害や不審者対応などのリスクに備え、職員・子ども・関係機関に対して必要な対策などをその都度共有している。また、事故や感染症、侵入、災害などの事案が発生した際には、職員ミーティングを通じて情報を収集・整理し、要因分析と対応策の見直しを行っている。発生前の訓練による予防的な備えと、発生後の検証・改善という二重のアプローチにより、組織としての対応力を高める努力をしている。特に、事案発生時に迅速な情報共有と振り返りを行い、改善を重ねていることは、現場の判断力と柔軟な対応力の向上につながっている。</p> <p>区のルールに基づき、情報の収集・保管・廃棄に関する規程を遵守し、適切に行っている 情報管理を区のルールに基づいて適切に行っている。情報の収集・保管・廃棄に関する規程を遵守し、職員のみならず実習生やボランティアも含めて周知を図り、共通理解のもとで運用されている。書類は項目ごとに分類され、鍵のかかる書庫に整理・保管されており、必要ときに必要な情報を適切に活用できる体制が整っている。個人情報については、持ち出しを厳禁とし、使用後は必ず所定の場所に戻すという明確なルールが徹底されている。さらに、個人情報保護法の趣旨を踏まえ、利用目的の明示や開示請求への対応も区の規程に則って行われている。</p>		

5			カテゴリ-5	
5			職員と組織の能力向上	
			サブカテゴリ-1(5-1)	
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる			サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	
			12/12	
評価項目1			事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている	
			評点(〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している		○非該当	
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる		○非該当	
評価項目2			事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している	
			評点(〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている		○非該当	
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している		○非該当	
評価項目3			事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる	
			評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している		○非該当	
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している		○非該当	
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している		○非該当	
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている		○非該当	
評価項目4			職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる	
			評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている		○非該当	
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる		○非該当	
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる		○非該当	
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている		○非該当	
			サブカテゴリ-2(5-2)	
組織力の向上に取り組んでいる			サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	
			3/3	
評価項目1			組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる	
			評点(〇〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している		○非該当	
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている		○非該当	

あり なし

3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる

非該当

カテゴリ-5の講評

大学に出向いての説明や募集活動も行われており、人材確保への積極的な姿勢が見られる

必要な人材を確保するため、児童課が採用を担い、児童館長が現場の状況を報告し、人員配置に反映している。大学に出向いての説明や募集活動も行われており、人材確保への積極的な姿勢が見られる。また、異動や配置に際しては、家庭の事情や職員の状況を踏まえた調整が行われ、適切な人員配置へとつなげている。理念や目標を実現するための重要な基盤となっている。一方で、非常勤職員の比率が高い中で、スキルや理解度の差が課題となり、共通理解が十分に深まらない側面がある。今後は、常勤・非常勤職員が一体的に能力を高める仕組みが望まれる。

常勤職員には人事評価制度が適用され、到達度や今後の課題を確認している

児童課主催の研修に職員が参加し、スキルアップを図っている。研修後には報告書を作成し、ミーティングで内容を共有することで組織全体に学びを広げている。また、常勤職員には人事評価制度が適用され、到達度や今後の課題を確認しながらキャリア形成につなげている。非常勤職員についても研修機会が確保され、個別の意向や状況を踏まえた育成が進められている。人材育成とキャリア形成の両輪として機能しており、職員の専門性向上を後押ししている。なお、個々の研修成果が十分に次の育成計画へ反映されていない面もあり、今後、改善が望まれる。

日常的な気づきをミーティングで共有し、サービスの質向上や業務改善につなげている

研修後の報告や日常的な気づきをミーティングで共有し、サービスの質向上や業務改善につなげている。ロングミーティングを通じて意見交換や意思疎通が図られ、職員同士の信頼関係づくりや協働意識の醸成にも繋がっている。日々の子どもの関わりの中で得た実践を共有することは、組織全体での学びを深める貴重な機会となっている。組織力を高める上で有効で、職員一人ひとりの経験がチーム全体の資源となっている。一方で、職員のスキルや考え方の違いにより、共通理解が十分に形成されない場合もあり、学びを統一的に整理する仕組みが期待される。

カテゴリー7

7 事業所の重要課題に対する組織的な活動

サブカテゴリー1(7-1)

事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている

評価項目1

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

【課題・目標】

- ・令和4年に運営方針が新しくなったが、指導員に十分浸透せず、共通理解に至らなかったことが課題である。
- ・毎日の運営に追われ、子ども主体の関わりが弱まりつつある懸念があり、理念や基本方針の理解促進が目標とされた。

【取り組み】

- ・運営方針の7つの目標をもとにチェックリストを作成し、職員間で話し合いを実施した。
- ・各目標についてグループワーク形式で意見交換を行い、理解を深める場を設けた。

【取り組みの結果】

- ・職員間の考え方の違いを改めて認識できたことは成果であった。
- ・共通理解には至らなかったものの、違いを理解したうえで日々の育成や子どもとの関わりに活かす意識が芽生えた。

【振り返り・今後の方向性】

- ・運営方針を具現化するための研修を活用し、職員の多様性を尊重しながら共通理解を進める必要がある。
- ・方針を分かりやすく伝える工夫を行い、全員が主体的に運営を考えていける体制づくりを進めている。

目標の設定と取り組み	<input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	<input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

クラブでは、令和4年に新たな運営方針が策定されたものの、職員間で十分に共有されず共通理解に至らなかった点を課題として適切に抽出している。これに対し、運営方針の七つの目標を用いたチェックリストを活用し、職員間でグループワークを行い理解促進を図る取り組みが実施された。結果として、職員間の考え方の違いを認識し合い、多様性を尊重する基盤が築かれたことは成果であると言える。一方で、共通理解には十分に至らなかったものの、日々の子どもの関わりや育成に活かす意識が芽生えたことは一定の効果を示している。今後は、運営方針を具現化するための研修を積極的に活用し、方針を分かりやすく伝える工夫を行うことで、全職員が主体的に運営を考えられる体制の構築が期待される。

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

【課題・目標】

- ・多様な子どもがお互いを尊重し、安心して落ち着いて過ごせる居場所づくりを目標とした。
- ・大規模事業所の人数の多さや空間の狭さ、支援級・支援学校に通う児童や集団になじみにくい児童への対応を重要課題とした。

【取り組み】

- ・支援級の児童には家庭と連携し、安心して過ごせるアイテムを準備するなど個別対応を行った。
- ・通常級の児童については生活や遊びの様子を観察し、職員間で情報共有しながら関わり方を検討・実践した。
- ・職員同士で話し合い、対応方針を共有する体制を整えた。

【取り組みの結果】

- ・支援級の児童では統一的な対応により落ち着きが見られた。
- ・一方で、通常級の児童では固定職員による継続的対応が難しく、安定した環境づくりに課題が残った。

【振り返り・今後の方向性】

- ・環境面の制約はあるものの、職員が日々工夫を重ね、問題発生時に話し合い対応を模索する姿勢は定着している。
- ・今後もこの姿勢を生かし、より良い居場所づくりを進めていくことが期待される。

<p>目標の設定と 取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていない
<p>取り組みの検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていない(目標設定を行っていない場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<p>検証結果の反映</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

クラブでは、多様な子どもがお互いを尊重し、落ち着いて過ごせる居場所づくりを重要課題として掲げており、大規模事業所における人数の多さや場所の狭隘化を背景に、支援級や支援学校に通う子ども、また集団適応に難しさを抱える子どもへの対応を重点的に取り組んできた点は妥当である。

具体的には、支援級の子どもについて家庭と連携し、落ち着いて過ごすためのアイテムを準備するなど個別性に応じた支援を行い、通常級の子どもについては遊びや生活の様子を観察し、職員間で情報を共有してかかわり方を話し合い、実践に活かしてきた。

その結果、支援級の子どもは統一的な対応により穏やかに過ごせるようになった。一方で、通常級の子どもでは対応職員の固定化が難しく、安定した環境が十分に確保できない場面も見られた。しかしながら、職員が日々工夫を重ね、問題が生じた際にその都度話し合い改善を模索する姿勢は定着しており、今後もこの取り組みを継続し発展させていくことで、子どもにとってより良い居場所づくりにつながると評価できる。

Ⅱ サービス提供のプロセス項目(カテゴリ6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
	サブカテゴリ1	
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 4/4
	評価項目1 子どもや保護者等に対してサービスの情報を提供している	評点(〇〇〇〇)
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 子どもや保護者が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している
	○非該当	
	●あり ○なし	2. 子どもや保護者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている
	○非該当	
	●あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や保育所、幼稚園等に提供している
	○非該当	
	●あり ○なし	4. 子どもや保護者の問い合わせや見学等の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している
	○非該当	
	サブカテゴリ1の講評	
	<p>おたよりを通じて日々の活動を伝えているが、地域とつながる情報の発信にも期待したい</p> <p>新BOPだよりでは、毎月の活動や行事予定を保護者に伝えている。また、区のホームページでの掲載など、地域全体に事業内容を知ってもらう工夫もなされている。新BOPだよりは学童と合同で発信しているが、季節によっては学童クラブが独自で発行している。対象者に丁寧に伝えることで安心につながっている。今後は、日常の様子などを加えることにより、さらに生活の様子が伝わり充実してくると思われる。さらに、様々な人の目にふれることを想定し、幅広い世代に親しまれる情報媒体へと発展させていくことに期待したい。</p> <p>保護者一人ひとりに寄り添いながら、わかりやすく丁寧な情報提供を行っている</p> <p>保護者の理解度や状況に応じて個別に丁寧な説明を行っている。必要に応じて児童課作成の英語版資料を活用するなど、誰にでも伝える工夫を続けている。利用者には説明の際に、単に情報を渡すだけでなく、個別の対応をして理解してもらえよう意識しながら対応している。保護者との信頼関係を深めるうえで、こうした丁寧な伝え方は大切であり、安心感や親しみを育む要素となっている。また、クラブには壁に視覚的にわかりやすいお知らせやポスターなども掲示している。</p> <p>見学や問い合わせに柔軟に応え、信頼を育くめるように努めている</p> <p>見学や問い合わせの際には、子どもや保護者の状況に応じて柔軟に対応している。例年、就学時健診時の見学は入会のお知らせにも記載しているが、希望があれば随時受け入れている。実際の活動を見てもらってから利用できるよう配慮している。こうした対応は、初めて利用する家庭には安心感につながり、保護者からの信頼につながっている。現在は児童課からのお知らせで周知しているが、保育園や幼稚園など他機関へも直接、情報を提供していくことも検討されたい。</p>	

サブカテゴリ-2		
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 8/8
評価項目1 サービスの開始にあたり子どもや保護者に説明し、理解を得ている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を子どもや保護者の状況に応じて説明している	○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容や利用者負担金等について、子どもや保護者の理解を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、子どもや保護者の意向を確認し、記録化している	○非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの援助に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	○非該当
●あり ○なし	3. サービス利用前の生活をふまえた支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)の受入れに向けた配慮及び環境整備を行っている	○非該当
●あり ○なし	5. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、生活の連続性に配慮した支援を行っている	○非該当
サブカテゴリ-2の講評		
<p>保護者への丁寧な説明と、ICT活用による情報共有の取り組みを行っている 入会時には説明会や個別面談を実施し、学童クラブの基本ルールや活動内容、利用負担金などを丁寧に説明している。途中入会の家庭にも個別対応を行い、保護者の要望などを把握し、記録している。4月からはタブレット端末を利用する情報システム連絡を導入し、連絡帳に代わる情報共有ツールとして活用している。入退出管理も自動化され、連絡の確実性が向上した。さらに、保護者会やお迎え時の会話を通じて、意見を収集し職員間で共有している。保護者との信頼関係を深め、子どもが安心して学童生活を始められるようにしている。</p> <p>子どもが環境の変化に円滑に対応できるよう、支援の充実を図っている 入会直後の子どもが新しい環境に慣じむことができるよう、入所前から個別事情や性格を把握している。配慮が必要な場合には、児童票やアレルギー調査票を用いて記録・共有している。任意だが新一年生には就学支援シートのコピーを提出してもらい、学校との連続性も意識した支援を行っている。受入れ時は職員が情報共有し、子どもの様子の変化を観察している。子どもが安心して過ごせるよう声かけしながら、環境変化による不安やストレスを軽減するよう努めている。柔軟かつ個別性を重視した支援による、子どもの学童生活への移行が円滑に進んでいる。</p> <p>終了時の不安軽減を図り、生活の連続性を重視した支援体制を行っている 卒所後の生活先として、BOPや児童館の利用について説明し、保護者や子どもが安心して移行できるよう支援している。希望者には個別面談を行い、家庭の状況や子どもの思いに応じた柔軟な対応をしている。「子どもにとって最もよいこと」を共に考える姿勢は、生活の連続性を保ち、安心感につながっている。また、不審者対応や犯罪発生時にはBOP児童とも協力して安全を確保し、学校との情報交換も行うなど、地域全体で子どもの安心を守る体制を築いている。</p>		

サブカテゴリー3

3	個別状況の記録と計画策定	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	10/10
<p>評価項目1 子どもの視点に立った育成支援の目標に沿って育成支援の計画を作成している</p> <p style="text-align: right;">評点(0000)</p>			
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 育成支援の計画は、目標に沿って年間を見通して作成している	○非該当	
●あり ○なし	2. 育成支援の計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、援助の過程を踏まえて作成、見直しをしている	○非該当	
●あり ○なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)に対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当	
●あり ○なし	4. 育成支援の目標や計画について保護者の理解を得られるように説明している	○非該当	
<p>評価項目2 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している</p> <p style="text-align: right;">評点(000)</p>			
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当	
●あり ○なし	2. 育成支援の計画に沿った援助の内容について具体的に記録している	○非該当	
●あり ○なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)については一人ひとりの子どもの状況や援助の内容を具体的に記録している	○非該当	
<p>評価項目3 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している</p> <p style="text-align: right;">評点(000)</p>			
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 育成支援の計画の内容や記録を、職員すべてが共有し、活用している	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	○非該当	
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄る等話し合う機会を設けている	○非該当	
サブカテゴリー3の講評			
<p>子どもの実態に基づく育成計画の作成・見直しを通して、一貫した支援を行っている</p> <p>ミーティングや事務局長・児童指導員による協議を行い、昨年度の振り返りをもとに年間計画を作成している。日々の子どもの状況や環境を反映し、目標やねらい、イベントの変更も検討している。特別な配慮が必要な子どもについては、個別対応方針を検討している。保護者には、4月の保護者会で計画を説明し、意見を聞いている。計画は職員間で共有され、一貫性のある支援が可能となっている。必要に応じて計画の見直しも図っている。子ども一人ひとりに応じた適切な支援を実施し、保護者との連携も含めた透明性の高い育成支援を実践している。</p> <p>ミーティングや面談の記録のほか、子どもの育成記録等も作成し、支援に活かしている</p> <p>ミーティングの内容や個人面談表により、子どもの状況や援助内容を適切に記録している。例えば、障害のある子どもについては個別にファイルを作成し、発達状況や具体的な援助などを整理してまとめている。職員は記録を参照して対応方針を決定するなど、情報を育成支援に活かしている。また、巡回指導による発達指導や学級担任との情報交換に関する記録も整備し、個別対応の根拠となっており、一人ひとりに必要な支援内容や関わりが分かるようにしている。</p> <p>職員間の情報共有により、子どもの状況を理解し、連携して支援にあたっている</p> <p>育成の支援計画や個別記録は、定期的なミーティングで職員間で共有されている。出席できなかった職員には、記録を通して内容を把握できるようにしている。子どもや保護者の状況変化に応じて申し送りや引継ぎを行い、対応方針の統一を図って支援の一貫性を保っている。また、子どもへの理解を深めるための話し合いの時間を設け、子どもの特性や日々のエピソードを共有し合うことで、より幅の広い支援へとつなげている。こうした情報共有の積み重ねにより職員間での連携が強化され、子ども一人ひとりに応じた柔軟で継続的な支援が可能となっている。</p>			

サブカテゴリー5		
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部和やりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どものプライバシーに配慮して援助している	○非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 日常の援助の中で子ども一人ひとりを尊重している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮して援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 学童クラブ内の子ども間の暴力・いじめ等が行われることのないよう組織的に予防・再発防止を徹底している	○非該当
サブカテゴリー5の講評		
<p>プライバシー保護を徹底しており、子どもの安心・安全への配慮を行っている</p> <p>子どもに関する情報を扱う際には、保護者の同意を得ることを基本としている。家庭間の連絡が必要な場合には職員が仲介に入り、慎重に対応している。けんかや事故などの報告では個人名の扱いに十分配慮し、必要以上に公にしないよう注意している。また、プライバシーポリシーに基づき、性差に応じた支援を行っており、着替えなどは人目を避けた場所で行うなどの配慮を徹底している。男性職員に対しても遊び方や接し方について共通理解を図り、安全で安心できる関わりを意識している。これらの取り組みは、個人の尊厳を守り支援環境を整えている。</p> <p>一人ひとりの尊厳と意思を尊重した支援の推進を図り、子どもの生活を保証している</p> <p>子ども一人ひとりの性格や感じ方を尊重し、ことばのかけ方や関わり方を工夫し変えている。特に、自己主張が苦手でアピールが希薄な子どもや、逆に子どもが自分を誇示したり不快なことを言ったりする場面では、職員が積極的に声をかけ、お互いに安心して楽しく過ごせるよう気を配っている。子どもが自分の気持ちを大切にされていると感じられるように努め、異年齢集団の遊び方にも注意を払っている。保護者の価値観や生活習慣への理解が必要な場合には、その意向を尊重しながらも、子どもの最善の利益に対する共通認識が持てるように対応している。</p> <p>全職員が、いじめ・トラブルの未然防止と早期対応を徹底して行っている</p> <p>子ども同士の関係性を細やかに見守り、暴力やいじめが起こらないよう常に注意している。子ども同士の関わりや遊びの中で、周囲に対する威圧的な様子、緊張感がある行動、気持ちの不安定さ、からかいなどの兆しが見られた場合には経過を見ながら職員が介入し、子どもに相手の気持ちを理解し、思いやる行動を促している。日々の様子の変化を見逃さないよう、職員全体で情報共有しながら、いじめ・トラブルの未然防止と早期対応を図っていることがわかる。職員は、子どもたちが互いを尊重しながら安心して過ごせる環境を維持できるように取り組んでいる。</p>		

サブカテゴリー6	
6	事業所業務の標準化 サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている 評点(〇〇〇)	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている ○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている ○非該当
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している ○非該当
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている 評点(〇〇)	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている ○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や子ども・保護者等からの意見や提案を反映するようにしている ○非該当
サブカテゴリー6の講評	
<p>各種の手引書を「レインボーファイル」に整理し、職員が活用できるようにしている</p> <p>クラブでは、サービス提供に関する基本事項や手順をまとめた手引書を「レインボーファイル」として整備し、事務所書庫の定位置に配置している。マニュアルは災害時や感染症、事故防止や保護者対応などが網羅されており、職員がいつでも確認できるようにしている。日常業務の判断に迷ったときや点検が必要ときに活用している。この仕組みにより、業務が職員間で統一され、誰が担当しても一定の質を保った支援ができる体制が整っている。業務の標準化を通して、安定したサービスの提供と安心感のある運営を実現している。</p> <p>職員による業務水準のばらつきを防ぎ、自ら考え行動できるようにしている</p> <p>「レインボーファイル」や「新BOP運営の手引き」等に基づき、職員の業務内容や手順を明確にし、誰が担当しても一定の水準で支援を提供できるようにしている。サービス提供の基本事項、記録方法、安全対応などが整理されており、職員がいつでも確認できるようにしている。新任職員への指導の際にも、このファイルを活用している。共通の資料を基盤にすることで、判断や対応のばらつきを防ぎ、安定した支援の提供につながっている。また、手引書は職員が自ら考え行動するための指針となっている。</p> <p>定期的な業務点検と標準水準の見直を図っており、柔軟な支援につなげている</p> <p>業務水準の維持と改善を目的に、定期的な点検と見直しを行っている。児童課からの報告や指示が共有され、児童館館長を通じて内容の周知や改善方針が伝えられる仕組みがある。行政と現場が連携しながら運営を進める体制が整っている。また、ミーティングでは日々の実践を振り返り、課題や改善点を出し合うことで、実際の支援に即した形で手順の更新を行っている。保護者や子どもからの意見にも耳を傾けている。こうした定期的な見直しのサイクルにより、サービスの標準水準を常に最新の状態に保ち、柔軟性のある支援の提供を実現している。</p>	

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

		サブカテゴリー4	
サービスの実施項目		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	29 / 29
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じて援助している		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
◎あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで援助している		○非該当
◎あり ○なし	2. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め、お互いを尊重しながら協力し合い、関係を豊かに作り出せるよう援助している		○非該当
◎あり ○なし	3. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか等)に対し、子どもの意見に耳を傾け、感情の高ぶりを和らげること等ができるよう援助している		○非該当
◎あり ○なし	4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)が、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している		○非該当
評価項目1の講評			
<p>家庭・学校と連携し、職員間でも情報共有しながら、子どもへの支援を充実させている</p> <p>クラブでは、子どもの発達や生活環境を踏まえて援助を行うため、家庭・学校との連携を重視している。家庭とは、入会申請書などの提出書類で生育歴を把握するほか、お迎え時にその日の様子を伝えている。生活の中で気になる点があれば、直接連絡を取っている。さらに、状況に応じた配慮もしている。年1回の個人面談で、子どもの発達・生活状況に関する情報交換もしている。必要に応じて学校のクラス担任と連絡を取り、気になる子どもの状況について個別に情報共有している。収集した情報を職員間で共有することで、より良い支援に活かしている。</p> <p>子ども同士の自然で安心な関係づくりのため、職員が仲介に入り環境を支えている</p> <p>クラブでは子ども同士の関わりの中で自然に交流が深まるよう、職員が仲介に入り、年齢や発達の違いを認め合えるようにしている。友だちの様子に疑問や違和感を持った子どもには丁寧に説明し、相互理解を促している。また、トラブルが生じた際は職員が双方の話をしっかり聞き、どうしたいかを言葉にして伝え合えるよう働きかけている。感情の高ぶりを抑えられないときは、場所を変えて話を聞くなどの配慮をしている。職員の目に入りにくい場面での衝突にも、常に注意を払っている。子どもが安心して気持ちを表現できる環境を支えている。</p> <p>配慮を必要とする子どもへの支援の質向上のため、様々な取り組みを実践している</p> <p>職員は、配慮を必要とする子どもが仲間と過ごす中で成長できるよう支援し、遊具を用いた活動を通じて交流を図っている。児童課の巡回相談も定期的に活用し、遊びや支援方法について助言を受け、日々の実践に反映している。クラブの環境を理解した専門的なアドバイスは、支援の質を高める上で有効である。しかし、職員の経験や得意分野によって子どもへの支援に差が見られるため、情報共有や研修を重ね、スキル向上を図ることが望まれる。こうした積み重ねにより、全ての子どもが安心して集団生活に参加できる環境を、一層整えていくことに期待したい。</p>			
2 評価項目2 日常の援助を通して、子ども一人ひとりの生活や遊びと集団全体の生活が豊かに展開されるよう工夫している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
◎あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、発達段階にふさわしい遊びと生活を送ることができるよう環境を工夫している		○非該当
◎あり ○なし	2. 子どもが集団活動に主体的に関われるよう、援助している		○非該当
◎あり ○なし	3. 生活や遊びを通して日常生活に必要な基本的な生活習慣を習得できるよう、援助している		○非該当
評価項目2の講評			
<p>校庭や室内に多様な遊び環境を整え、自主性を尊重して楽しめるよう工夫している</p> <p>校庭の遊びスペースを3つに分け、野球やサッカーなどの球技、王様陣取りやドッジボールなど、それぞれ安全に遊べるよう設定している。校庭の固定遊具や一輪車、竹馬も使用し、体を動かして遊べる環境になっており、外遊びを希望する子どもが多くなっている。天候によっては体育館も利用して球技などを行っている。室内には本・漫画、パズル、カードゲーム、折り紙、工作、ブロック系など、多様な遊びができる環境を整えており、在籍人数が多い中でも、一人ひとりの発達や性格、その日の希望や興味に応じて楽しめ、自主的に選べるようにしている。</p> <p>職員が遊びや活動に関わり、子どもの安全や主体性を重視した集団生活が展開されている</p> <p>外遊びを好む子どもが安全に楽しめるよう、若いプレイングパートナーが子どもと共に走り回り、遊びに参加している。新しい遊具や遊びを導入する際には、職員がルールを説明し、遊具の使い方を掲示して子ども自身が理解できるよう工夫している。新入会の子どもの中には職員が中に入り、仲間に入りやすいよう促している。また、希望する子どもには定期的に2人の職員が担当して工作活動を行い、作品を壁に掲示して多様な興味に応えている。子どもが主体的にやりたい活動に参加し、互いに関わり合いながら集団生活を豊かに展開できている。</p> <p>子どもが安心して過ごせるよう、衛生・安全・習慣づけを職員が連携して支援している</p>			

子どもたちは毎日、入退出時の連絡カード操作・提出や帰宅時間の確認などを必須事項として行っている。衛生面から入室時やおやつ前には、手洗いを促している。職員は学校からの入室時には子どもの様子を目視で確認し、気になる点やその後の変化はインカムで全体に共有できる体制を整え、おやつや帰宅時間も共有し、適宜声を掛けている。片付け習慣については遊具の収納や設置場所を決め、子どもが自分から取り組みやすいよう工夫している。施設内のルールはその都度伝え、破損事故など徹底すべき事例が起きた際には全体に周知している。

3 評価項目3 日常の活動に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している		○非該当
●あり ○なし	2. 子ども同士が意見を出し合いながら企画や活動をつくり上げていく機会を設けている		○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている		○非該当
評価項目3の講評			
<p>子どもの興味や関心を引き出せるよう、常に状況を把握して遊びや行事を提供している</p> <p>職員は、日頃の遊びや子どもの反応の中から行事を企画している。ポスターを掲示し、子どもの関心を引くようにしている。年間計画に基づき実施するだけでなく、暑さで外遊びが難しい日には廊下で新しい遊びを提供するなど、臨機応変に対応している。年齢や発達に合わせ、多くの子どもが楽しめる内容を調整している。長期休業中は職員の勤務人数が限られるため、準備に十分な時間が取れない場面もあるが、日常の遊びに変化や潤いを持たせる工夫を大切にしている。こうした取り組みにより、子どもの興味や関心を引き出す支援が継続的に行われている。</p> <p>子どもが意見を出しあう遊びや行事を企画し、自主性を育む機会を設けている</p> <p>クラブでは、子どもが意見を出し合い企画する機会が設けられている。夏休みには「こんな手作りゲームがあったら良いな」というテーマでアンケートを取り、その内容を掲示して思いを形にしている。児童館まつりでは、子どもが企画・準備した遊びのお店を毎年出店している。また、卒前前の3月には3年生のリクエスト遊びを反映した行事を実施している。まだ職員主導の場面も多いが、活動を継続する中で変化する子どもの意識や自主性を大切に、子ども自身が達成感を感じられる活動としていくことに期待したい。</p> <p>子どもたちの行事への参加意欲を高めるため、保護者に趣旨を説明している</p> <p>行事の準備や実施にあたり、おたよりで家庭に日程や内容を伝え、参加の可否について家族で相談してもらうよう働きかけている。家庭の理解は子どもたちの意欲につながるため、日頃からお迎え時の会話などで学童クラブの活動内容を知らせ、理解を深めている。子どもたちが企画・運営する児童館まつりへの参加は、平日の学童クラブの時間外となるため、特に趣旨を説明し、協力を依頼している。平日以外のこのような行事は保護者や兄弟なども参加でき、学童クラブへの理解を深める大きな機会となるため、職員は家庭と連携しながら取り組んでいる。</p>			
4 評価項目4 子どもの主体性を尊重し、学童クラブでの生活が楽しく、快適になるような取り組みを行っている		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもが自ら進んで学童クラブに通い続けられるよう援助している		○非該当
●あり ○なし	2. 共通する生活時間の区切りをつくり、子ども自身が見通しを持って主体的に過ごせるよう援助している		○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが安心して活動できるよう、状況に応じて室内の環境を工夫している		○非該当
●あり ○なし	4. 【「新・放課後子ども総合プラン」「都型学童クラブ実施要綱」に基づき放課後子供教室と一体型で実施、または連携して実施する場合】 子どもが放課後子供教室の活動プログラムに参加しやすいように連携を取りながら援助している		○非該当
評価項目4の講評			
<p>子どもたちの希望の活動を取り入れ、保護者と連携して楽しく通えるよう支援している</p> <p>子どもたちが進んで通えるよう、活動の希望をできるだけ取り入れている。特に、校庭では野球など人気のある遊びを日替わりではなく、繰り返し行えるよう環境を整え、必要に応じて新しい遊びや遊具も取り入れている。人数に対して室内スペースの確保が難しい面もあるが、子どもの思いに寄り添った取り組みを行っている。保護者から「行きたがらない」との連絡を受けた際や新入会時には、入室時に丁寧に声をかけ、その後の様子を見守り、やりたい遊びに誘うなど配慮している。保護者との連絡を大切に、子どもが楽しく通い続けられるよう支援している。</p> <p>活動的・静的な時間のメリハリをつけ、主体的に見通しを持って過ごせるようにしている</p> <p>クラブでは、日々の活動の中で、活動的に過ごす時と静的に過ごす時のメリハリをつけている。時間の区切りを設けることで、子どもが主体的に見通しをもち、自分のペースで過ごすことを大切にしている。夏の猛暑時は、体を動かしたい気持ちを満たすため、夕方の日陰を活用し、短時間でも外に出る時間を確保している。また、学校休業日には、低学年で体力が十分でないことを考慮し、午前中に学習時間を設け、昼食やおやつの時間に少しゆっくり座るなど、子どもたちの様子を見ながら配慮して支援している。</p> <p>クラブの子どもたちが、クラスの友だちとも楽しく安全に遊べる環境が整っている</p> <p>放課後子供教室(BOP)と学童クラブは一体的に運営され、子どもたちはクラブ登録の有無にかかわらず、BOPへの登録により区別なく遊びに参加している。職員も毎日約150人の子どもを把握し、出席確認やおやつ対応以外は同様に関わっている。イベント情報は学校配布の新BOPだよりで周知され、行事にも参加しやすい環境が整っている。放課後にクラスの友だちと遊べる点はクラブの子どもにとって魅力的であり、職員は遊具の補充や点検に努め、安全な遊びを支援している。なお、室内遊具の消耗が見られるため、今後の更新に期待したい。</p>			

5 評価項目5 子どもが日々の生活を円滑に過ごせるよう、学校等と密に連携を図っている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが学童クラブでの生活を円滑に過ごせるよう、学校との情報交換や情報共有等密に連携して援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 不登校など課題を抱える子どもについて、学校と密に情報共有しながら子どもの気持ちに配慮して援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)や養育環境で特に配慮が必要な子どもの援助にあたっては、関係機関(教育機関、福祉関係機関、医療機関等)と連携をとって行っている	○非該当
評価項目5の講評		
<p>学校と情報共有しながら調整を図り、放課後における生活の連続性を保障している</p> <p>クラブでは、学校の時程表や行事予定を把握・掲示し、子どもたちの学校での状況に応じた支援につなげている。窓口は副校長が担い、体育館など施設利用の調整や災害など緊急時対応の連絡も相互に随時行い、安全確保の体制を整えている。また、新BOP連絡協議会には管理職の出席を依頼し、活動内容を伝えるとともに、他の参加者との情報交換を通じて理解を得ている。学校との関係はおおむね良好で、学校生活と放課後における生活の連続性も保障されている。今後は、在籍数に応じた部屋使用の協力など、さらなる連携の充実が期待される。</p> <p>担任教諭と日常的に連携し、職員は学校行事を参観してその様子も参考に支援している</p> <p>不登校や家庭の事情で課題を抱えるケースはほとんどないが、必要に応じて学校と連携し対応する仕組みがある。子どもの様子で気になることや、子ども同士のトラブルが生じた際には、担任教諭と情報交換を行っている。新BOPには各学年のほぼ半数の子どもが在籍・参加しており、日常的な情報共有は互いに役立っている。職員は運動会や授業参観などの学校行事に足を運び、学校での様子をクラブでの様子と照らし合わせながら見守り、職員間で共有して支援に活かしている。子どもたちも職員が来てくれることを喜び、関係づくりにもつながっている。</p> <p>学校や関係機関と連携して、配慮の必要な子どもへの支援の充実に努めている</p> <p>特別支援学校に在籍する子どもについては、送迎時に職員同士で日常的に様子を伝え合っている。さらに学校公開日には職員が足を運び、授業中の様子や対応方法を確認し、クラブでの支援に活かしている。放課後等デイサービスを併用する子どもについては、送迎時の情報交換に加え、職員が支援者連携会議に出席し支援の方向性を確認している。また、支援級だけでなく通常級に在籍し配慮を要する子どもについても、担任教諭と頻りに連絡を取り対応方法を共有している。日々の連携を通じて、子どもが安心して過ごせる環境づくりが進められている。</p>		
6 評価項目6 子どもがおやつを楽しめるよう援助している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いておやつをとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの来所時間や夕食の時間帯等を考慮して提供時間や内容、量等に工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの食物アレルギーの状況に応じたおやつを提供している	○非該当
評価項目6の講評		
<p>家庭科室を利用して、落ち着いておやつを食べられるよう配慮している</p> <p>おやつは遊びのスペースとは別に、隣の家庭科室で提供されている。子どもたちは帰宅の早い順に30人程度ずつ分けられた時間に、6人程度座れる机に着き、ゆったりとおやつを食べている。職員は手洗い、マナーや食べ方に配慮した声かけを行い、安心して落ち着いて過ごせる雰囲気を支えている。水道の設備も多く衛生面でも整った環境にある一方、家庭科室が授業で使用される日はおやつ開始が遅れ、食べられずに早く帰宅する子どももいる。今後、学校との調整が進むことで、安定しておやつを楽しめる環境が整うことが期待される。</p> <p>子どもたちは、安全面、衛生面に配慮された環境でおやつを選び、楽しんでいる</p> <p>おやつは、納品事業者が提案書を作成し、それを児童課で確認した後、週ごとにクラブに配送され、麦茶と共に提供されている。職員は1日のメニューや欠席者による余りを工夫して種類を増やし、子どもたちは好みに合わせて3種類程度選べるようになってきている。メニュー提案書に基づくため行事などに合わせた提供は難しいが、個包装菓子だけでなく果物、乳製品、アイスなども提供され、子どもたちの満足度は高い。職員は賞味期限や配膳など安全・衛生面に配慮し、安心して食べられるように提供できる体制を整えている。</p> <p>食物アレルギーに配慮した安全なおやつを提供し、緊急対応の体制を整備している</p> <p>クラブでは、入会時にアレルギー調査票に基づく保護者面談を行い、対応方法を確認している。現在、3人の児童に区から特別食が提供されており、毎月のメニュー提案書をもとに各家庭で原材料を確認の上、安全に提供している。おやつ配送・提供時には成分表示を再確認し、事故防止に努めている。職員は看護師によるアレルギー対応研修を必須で受講しており、マニュアルに沿った対応が可能となるよう、緊急時に備えた体制を整えている。また、他の子どもたちにも理解を促し、当該児が特別食以外のおやつを口にしないよう配慮し、見守りを徹底している。</p>		

7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるよう援助している		○非該当
●あり ○なし	2. 医療的ケアが必要な子ども等に、専門機関等との連携に基づく対応をしている		○非該当
評価項目7の講評			
<p>活動中や帰宅時の危険に関する注意喚起や避難訓練により、安全への関心を高めている</p> <p>子どもが安全に楽しく遊べるよう、遊びや活動の中で危険な行動が見られた際にはその場で注意している。安全管理上徹底すべき事項がある場合には、必要に応じて全員を集めて注意喚起を行っている。また、安全対策マニュアルに基づき、災害などの緊急時に対応できるよう避難訓練を実施し、その大切さを子どもたちに伝えている。さらに、保護者の迎えがなく帰宅する子どもについては、校門まで職員が付き添い、帰宅経路での注意点を確認して自覚を促しつつ送り出している。近隣の不審者情報を受けた際には、職員が地域を巡回する体制を整えている。</p> <p>夏の猛暑期間に熱中症対策を徹底し、子どもの安全な遊び環境を整えている</p> <p>夏季に猛暑が続く状況の中、クラブでは熱中症予防として様々な工夫をしている。毎日熱中症指数計で確認し、外遊び可能な日は帽子着用を必須とし、定期的な水分補給や30分ごとの休息を設け、職員が子どもの様子を常に把握している。持参した水筒にはクラブで麦茶を補充でき、校庭の一角に水筒・上着置き場を設けることで、子どもが自分で水分補給や上着の着脱を行える環境も整えている。室内ではカーテンを使用し、廊下には新たに日よけシートを設置して活用し、夕方には西日避けられる日陰で遊ぶなど、安全対策に努めている。</p> <p>マニュアルに基づき、子どもの健康管理と医療的ケア対応の体制を整えている</p> <p>現在、医療的ケアを必要とする子どもはいないが、昨年度の在籍経験を踏まえ、マニュアルに基づき対応できる仕組みが整えられている。職員は常に子どもの状況把握に努め、体調に変化が見られる際には声をかけて休憩を促している。体調不良時には事務室横のスペースで休ませ、必要に応じて迎えを依頼している。また、ノロウイルス等への対応セットも各所に配置され、対応方法については施設内研修を行っている。職員は丁寧な支援を心がけているが、子どもの人数が多い中、安心して休める場は十分とは言えず、健康管理の観点から今後の改善が望まれる。</p>			
8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている		○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている		○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている		○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの様子や発達の状況について、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている		○非該当
●あり ○なし	5. 子どもの出欠席の確認など、保護者と協力して安全を確保する取り組みを行っている		○非該当
評価項目8の講評			
<p>保護者の状況に応じて柔軟な支援体制を講じ、子育てと仕事の両立を支援している</p> <p>年度初めに職員間で情報共有を行い、保護者の就労や家庭の事情に応じた支援を行っている。必要に応じて延長時間を活用し、一人で帰宅する子どもの安全確認を徹底している。鍵の持ち忘れなどの際には子どもに戻るよう声掛けを行い、保護者とも連絡を取り合っている。父子家庭など、家庭状況に応じて信頼関係を築くために、連絡の方法を大切に考えている。こうした配慮により、保護者が安心して子育てと仕事を両立できる環境づくりが進められており、個々の事情に寄り添った支援が実践されている。</p> <p>子どもの様子を積極的に伝えており、保護者との信頼関係の構築に努めている</p> <p>怪我やトラブルなどの際には、職員が直接保護者に伝える体制を整えている。特に、頭部の怪我には保護者と迅速に連絡を取り合いながら受診へつなげている。お迎えの際には、子どもの良い様子を積極的に伝えている。こうした日常の声かけは信頼関係を深めるきっかけとなっている。年1回の個人面談では生活の様子を共有し、必要に応じて随時の面談も行い、家庭との連携を維持している。しかし、面談が任意であるため全員の参加には課題が残る。今後は、より多くの保護者が参加しやすい機会の工夫などについて検討していくことが期待される。</p> <p>保護者交流の機会を工夫し、保護者との一層の協力関係づくりに期待したい</p> <p>かつて行われていた父母会は、コロナ禍をきっかけに開催が中止となっている。現在は入会説明会を含め年2回の保護者会で交流を図っているが、家庭間のつながりづくりには課題が残る。一方で、職員は「何かあった時に話せる関係づくり」を重視し、日常のあいさつや声かけなど小さなやり取りを大切にしている。今後は、オンラインの活用など、多様な形での交流機会の再構築に期待したい。保護者同士や職員とのつながりが深まることで、家庭と学童が協力しながら子どもの安全と安心を支える基盤がより強化されると思われる。</p>			

9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○非該当
●あり ○なし	2. 学童クラブの行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが地域の子どもや大人と交流できる機会を確保している	○非該当
評価項目9の講評		
<p>児童館の活動を通じて、大人との交流体験の機会を設けている</p> <p>遊び場開放(校庭開放)を活用し、小・中学生や幼児など異年齢の子どもたちと共に遊ぶ機会がある。子どもが地域と関わる機会を積極的に設けている。児童館とも連携を図り、行事や活動を通して地域の人々と関わる機会を設けている。遊び場開放や児童館行事への参加を通して、地域の方々と交流しながら多様な体験を得ることができている。このことは、学童クラブの枠を超えて地域全体で子どもを見守る環境づくりにつながることになっている。地域との関わりを日常的に取り入れながら、学びや成長の場を広げている。</p> <p>新BOPとして、地域との交流を広げていきたいと考えている</p> <p>新BOPでは、児童館まつりなどの共催事業を通じて地域との関係を維持し学童クラブも参加している。こうした機会は、地域住民が子どもたちを理解し、温かく見守るきっかけともなっている。また学童クラブとして民設民営放課後児童クラブとも連携し、地域の子どもの生活に関する情報共有を行っている。一方で、地域行事への参加や、地域団体・自治会などの協働の場はまだ少なく、関係性が限定的である。学童クラブの単独ではなく新BOPとして進めていき、地域の理解を深め、双方向の関係を築きたいと考えている。</p>		

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	1-1-2	経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている
タイトル①	学校との連絡調整や協力依頼を行い、地域の教育環境と連動した支援を実現している	
内容①	事務局長が自ら積極的に職員との関わりを深めるとともに、関係機関との連携を推進している。日常的に職員へ声をかけ、その努力を労う姿勢は、職員のモチベーション維持やチームワークの強化につながっている。また、子どもたちが安全で快適に活動できるよう、グラウンド整備を行い、活動環境の改善に努めている。学校との連絡調整や協力依頼も丁寧に行い、地域の教育環境と連動した支援を着実に実現している。少年野球の保護者との関わりを通じて地域の保護者層とも良好な関係を築いていることは、子どもを中心に据えた協働体制として評価できる。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-3-1	子どもの視点に立った育成支援の目標に沿って育成支援の計画を作成している
タイトル②	計画について職員間で共有を図り、保護者の意見も聞いている	
内容②	クラブでは、ミーティングや事務局長・児童指導員による協議を経て、年間計画を作成している。日々の子ども達の状況や環境を反映し、目標やねらい、イベントの変更も検討している。特別な配慮が必要な子どもについては、個別対応方針を検討している。保護者には、4月の保護者会で計画を説明し、意見を聞いている。計画は職員間で共有され、一貫性のある支援が可能となっている。さらに、必要に応じて計画の見直しも図っている。子ども一人ひとりに応じた適切な支援を実施し、保護者との連携も含めた透明性の高い育成支援を実践している。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-2	日常の援助を通して、子ども一人ひとりの生活や遊びと集団全体の生活が豊かに展開されるよう工夫している
タイトル③	子どもの主体性を尊重し、自由に選べる多様な遊びを通して、その成長を支援している	
内容③	クラブでは、子どもたちが好きな遊びを選び集団で安全に楽しく遊べるよう、校庭を3つのスペースに分け、人気のサッカーや野球などの球技や集団遊びなどができるよう設定している。外遊びが好きな子どもが多く、毎日元気にのびのびと楽しんでいる。室内の2部屋は遊具の種類に応じ落ち着いて取り組む遊びと少し動きのある遊びができるよう用意している。外遊びができない日などに体を動かしたい思いを解消できる場として、廊下での集団遊びも提案している。職員は子どもの主体性を尊重し、活動の幅を広げ楽しみながら成長できるよう支援している。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	職員が一人ひとりの気づきを活かし、チームワークを発揮して子どもたちに丁寧な支援を行い、安心できる場を提供している
	内容	クラブは、182人の在籍児を抱える大規模クラブという環境にあり、多様な子どもたちが共に生活し、職層の異なる多くの職員がシフト勤務で支援に携わっている。職員は日々のミーティングで役割を明確にし、話し合いを重ね、限られた空間で最良の環境を提供する努力を続けている。インカムを用い、常に気になる子どもの情報共有し、トラブルへの迅速な対応ができる体制を整えている。また、幅広い年齢や経験をもつ職員が互いを補い合いながら支援しており、こうした丁寧な取り組みと確かなチームワークが、子どもたちや保護者に安心感を与えている。
2	タイトル	区のルールを遵守し、個人情報の持ち出しを厳禁とする方針のもと、書類は所定の場所に整理・保管され、書庫は施錠管理が徹底されている
	内容	在籍児童数や勤務形態の多様な職員が多数いる状況においても、情報管理は適切に実施されている。区のルールを遵守し、個人情報の持ち出しを厳禁とする明確な方針のもと、書類は所定の場所に整理・保管され、書庫は施錠管理が徹底されている。ファイリングも整理され、必要な情報を迅速に取り扱える体制が整っている。職員一人ひとりの意識も高く、日常業務においても情報の取扱いに細心の注意が払われている様子がうかがえる。子どもや保護者からの信頼を得るうえで重要な基盤となっており、事業運営全体の質を支える大きな強みである。
3	タイトル	ICTの活用一方で、対話による温もりも大切にしており、保護者との信頼関係づくりをバランスよく行っている
	内容	連絡用システムを導入し、従来の紙の連絡帳を廃止したことで、保護者の利便性を高め日々の連絡がスムーズに行えるようになってきている。デジタルの利便性を活用しつつ、人と人の直接的な関わりも大切にしている。送迎時に保護者と自然に言葉を交わしたり、保護者会でグループワーク形式の意見交換を行い、子どもの成長をテーマに語り合う機会を設ける等の取り組みをしている。このように、ICTの活用により時間的な負担を軽減しつつ、直接対話の良さを失わないバランスの取れた取り組みは、心をつなぐ温かいコミュニケーションの形として評価できる。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	職員の工夫や日々の取り組みを生かし、子どもの意見を積極的に反映し、主体的に参加できる環境づくりを進める支援が期待される
	内容	クラブでは、児童館まつりに子ども企画の来店を行うなどの主体的な活動を行っているが、子どもたちの要望を聞く場が設けられていない現状がある。意見箱の設置期間を定期的に設け、子どもの声を集めて職員ミーティングで共有・検討し、購入物品への反映や子どもへの提案を通して内容を深めていくことが望まれる。限られた時間やスペースの中で職員は意見を取り入れる難しさを感じているが、日々の活動の中に少しずつでも取り入れる取り組みの積み重ねが、子どもたちの意識を高め、より主体的に関われる育成支援の充実につながることを期待したい。
2	タイトル	利用児童数の増加に対して関係機関との協働をさらに強化し、子どもの成長にふさわしい環境を計画的に整備することが望まれる
	内容	利用児童数の増加に対して遊び場や活動スペースが限られており、子どもたちが十分にのびのびと過ごせる環境整備が課題となっている。保護者からも静かに過ごせるスペースを希望する意見が寄せられており、生活の場としての機能を一層充実させる必要がある。これまでも学校との情報共有や連携は進められてきたが、活動場所の確保については引き続き相談を重ね、学童クラブの運営を共に支える立場として学校側の理解をより深めていくことが重要である。関係機関との協働をさらに強化し、子どもの成長にふさわしい環境を計画的に整備することが望まれる。
3	タイトル	情報共有の確認手順の徹底を図り、全職員が必要な情報を確実に把握していくことが期待される
	内容	クラブでは、子どもの状況や育成支援に関する職員間の情報共有の手段としてミーティングノートを活用している。ノートに、職員それぞれが気づいたことや引き継ぎ事項を自由に記述し、時間や形式の制約も少ないため気軽に活用できている。ミーティングに参加できなかった職員も、ノートにより状況を把握できている。一方、現状ではノートを読んだかの確認は職員本人に任せており、確実に伝わっているか把握できない。情報の漏れや見落としを防ぐため文責や確認欄等を設ける等の対応により、より確実に職員が必要な情報を把握していくことに期待したい。